

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3190100127		
法人名	社会医療法人仁厚会		
事業所名	認知症高齢者グループホームしかの		
所在地	鳥取県鳥取市鹿野町今市80		
自己評価作成日	平成28年10月1日	評価結果市町村受理日	平成28年12月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	www.wam.go.jp
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人いなば社会福祉評価サービス
所在地	鳥取県鳥取市湖山町東2丁目164番地
訪問調査日	平成28年11月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

①併設の良さを活かした施設運営(ハード、ソフト) 研修、勉強会や医療の連携の充実。 ②委員会活動の活性化によりサービスの質の向上 ③地域交流 地域貢献。 ④入浴は温泉で大風呂でゆったりと入浴できる。 ⑤「してあげる」ケアでなく「一緒にする」「その人の力を引き出す」ケアを心がけている。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当施設は、鳥取県でも有数の温泉地鹿野にあり、近隣には総合病院や公園など、周りの環境にも大変恵まれている。また、敷地内には、老健等を併設している。 職員がいきいきと働いている様子がひしひしと伝わり、それが利用者の明るく和やかな表情に表れている。 地域とのつながりを重視し、様々な行事に積極的に参加し、自然に地域の一員となるような取組をされている。 「してあげる」ではなく「一緒にする」ケアの実践があちこちで見受けられた。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義を全職員で確認し、事業所理念は見やすい場所に掲示し、目を向けるようにしており、職員はホームの理念を述べるができるようケア検討時には理念を確認している。	グループホーム独自の理念を作り、玄関の壁に掲げ、スタッフ会議等で唱和するなど、常に意識するような仕組みを整えている。特に地域とのつながりを大切にし、地域密着型サービスの意義をふまえたサービスに努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域自治会には、入っていないが、地元での買物、外食、喫茶等、また、施設の周りを散歩することにより、地元の人との交流を図ったり、地元の小学生との交流や地域行事にも参加している。	日頃から公民館と積極的に連絡を取り、情報の受発信を行っている。 公民館まつりに出かけたり、地域の子どもたちにグループホームに来ていただき、入居者と一緒におやつ作り等を楽しんでいる。また、認知症予防教室の方々が来られて、今年はミニ運動会が行われ、日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ヘルパー研修、ボランティアの受け入れ、小中学生の受け入れなどで、グループホームを理解してもらおうと同時に支援方法を助言している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎に、計画に対しての活動報告、次回までの計画を話し、意見をサービス向上に活かしている。委員よりの提案等を参考に継続した取り組みに心がけている。	2ヶ月に一度定期的に開催されているが、時には会議後に、ボランティアの方たちとともに抹茶やお菓子でのおもてなし交流会を開き、委員同士の交流を図ることで、よりスムーズな会議運営ができるような工夫をされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議のメンバーに入ってもらっており、協力関係を築いている。	困ったことがあればすぐに相談できるような協力関係が築けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関しての勉強会を実施し意識を高めている。身体拘束がどういうものか理解しており、身体拘束をしないケアを実践している。常にゼロを意識し取り組んでいる。	年に2回法人が行う勉強会に出席し、身体拘束を正しく理解するように努めている。基本的に玄関の施錠は行わない。利用者が出て行こうとするときは、静かに見守りながら付き添っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関してどういうものかを理解出来るように日頃から話し合っている。不適切ケアボックスを設置し、日頃から不適切なケアを見落とさないよう努めている。		

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護事業や成年後見制度についての研修があれば参加したり、対象者がおられれば、活用できるよう支援していく。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にはホームの生活を理解して頂き、対応可能な範囲や、退居後の方向性など入居者、家族の疑問や不安を確認しながら、時間をとって丁寧に説明している。	
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月1回利用者の会を実施し、苦情がある場合は苦情委員会や第三者委員で話し合い、公表している。話し合われた事や、面会に訪れた家族からの要望をスタッフ会議で話し合うようにしている。	毎年利用者や家族へのアンケートを実施し、結果を集計したものを公開している。家族からの意見や要望には積極的に耳を傾け、サービスの質の向上につながるよう努めている。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議、カンファレンス、勉強会、個別面談を行い、意見を聞くようにしている。また主任会議や管理会議に提起し、グループホームに反映させたり、日頃から職員同士コミュニケーションを図っている。	管理者と職員は、日常のサービスの中で常に話し合える良好な関係が築かれている。意見の内容により、スタッフ会議や管理会議等でも話し合いがもたれる仕組みが整えられている。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	期首面談により、向上心をもって働けるよう話し合っている。職員個々が目標を持って努力している。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設外研修については、参加日にあわせて勤務を組むなどの配慮をしている。また、併設老健主催の勉強会には、勤務の可能な限り参加している。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	気高地域のグループホーム同士の交流を、年2～3回おこなっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に面接を行い入居者の生活状態、心身の状態を把握するようにしている。また不安や思いを理解し、信頼関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面談で生活状況を把握するように努め、時にはホームの生活を体験してもらうような工夫をし、本人の求めていることや不安を理解する。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、本人、家族の思いや状況を確認し、改善に向けた支援の提案、相談を受ける中で、信頼関係を築き、居宅事業所とも連携しながら必要なサービスにつながるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者は人生の先輩であるという考えを職員が共有しており、調理や野菜や花を育てる時には入居者が主体となり職員が学ぶ場面をつくりお互い協働しながら生活している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者の様子や職員の思いをきめ細かく伝えることで職員は家族の思いに寄り添いながら本人を支えていくための協力関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今まで利用してきた商店へ買物、寺参り、ふるさと巡りなど馴染みの人や場所との関係を大切に継続できる支援をしている。	これまでの大切な関係が途切れないような支援をするとともに、積極的に地元の人たちとの交流を図り、この地域の一員として新たな関係を築くような支援も行われている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お茶の時間、散歩、行事参加、外出等、日常の活動を入居者同士で誘い合い生活している。又、入居者同士でコミュニケーションが取れるよう働きかけをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院退所後も経過を家族の方に聞き、併設老健とも今後のことについて相談や支援できる体制にある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で声かけ、把握に努めている。毎月利用者の会を設け様々な意見を聞いて決めている。意思疎通が困難な方については、家族から情報を得たり相談をして支援するようにしている。	表に現れる言葉や表情だけで判断するのではなく、利用者一人ひとりの心の思いをくみ取るよう、とことん話しを聞き、意向の把握に努めている。 また暮らしの情報シートを活用し、常に安定したサービスが提供できるように、職員間でも情報を共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴等本人から聞くと同時に家族からも情報提供を受けている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	健康状態は毎日チェックしている。日常生活能力、ゲームや趣味活動では出来ない事より出来る事に注目し変化を見逃さないように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族には日頃の関わりの中で思いや意見を聞き、反映させている。毎月のモニタリング、3ヶ月ごとの介護計画の見直しは本人や家族の意見を聞きながら、現状に即した介護計画を作っている。	本人や家族の思いや希望を十分に聞き取り、状態に即した計画を作成している。 3ヶ月に一度見直しを行い、家族への報告もその都度行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録を記入し、気づきや工夫は申し送り時に伝達、情報共有し、実践に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設老健の行事から地域交流へと活動の幅を広げ、グループホームの柔軟性を工夫しながら支援している。また本人や家族の状況に応じて柔軟な対応をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事に出かけたり、協力、貢献している。地域資源である「うたごえ喫茶」や、「鹿野カフェ」に参加協力し、入居者は地域の方とともに、歩んでいる。ボランティアへの協力も呼びかけている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に医療機関について確認している。家族が同行不可能な場合は職員が代行している。受診時の様子は連絡している。また一緒に付き添い、家族の思いを共に共有している。	基本的に、本人や家族が希望する医院に受診することができ、家族の同行が困難な場合は、同行支援も行われている。月に一度、認知症専門医の往診があり、適切な医療を受けられる体制が整えられている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設老健の医師、看護師の連携体制がある。看護師については24時間相談することが可能。また、介護職員の記録を元に適切な受診を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には、病院や家族と早期退院できるように情報交換に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアについての指針、マニュアルを作成したが、現在対象者はいない。	ターミナルケアについての指針、マニュアルを作成されている。また、急変時には、医療関係と家族との連携が取れるよう、職員とともに方針を共有され、支援につなげられている。	ターミナルケアについての職員研修をされ、地域の関係者とともに取り組む支援につなげられたい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応訓練や救急法を定期的に行い、緊急時に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	併設老健の年2回の火災訓練に入居者も参加している。また、シミュレーションでイメージトレーニングをし、職員同士でも確認している。	夜間を想定した訓練を含め、年2回併設老健で行われる訓練に参加されている。グループホーム独自でも、イメージトレーニングを行い、有事に備えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者のプライバシーに関わるものは、目の触れないところで保管している。人生の先輩として、言葉かけや対応に心がけている。	利用者への声かけは、よそ行きの言葉ではなく、しかし敬意を持って行うよう全職員が心がけている。虐待防止委員会を立ち上げ、職員が気が付いたことを入れるボックスを作り、常に高い意識を持てるよう取り組まれている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の会を開いて自己決定の場面を多く作っている。複数の選択肢を提案して本人が決める場面を作っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのライフスタイルに合わせたケアをしている。その日、その時の本人の気持ちを尊重して出来る限り個別性のある支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理美容の希望があれば月に1度カットサロンを利用している。日頃から化粧やおしゃれを楽しんでもらえるよう取り組んでいる。着替えも本人が決めるように配慮している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の食べたいものを献立に入れている。バイキング方式も取り入れて選んでもらう場面を作っている。買物、食事づくり、おやつ準備、片付けを職員と入居者が一緒に行っている。	一週間ごとの献立を、旬のものや利用者の希望に合わせて考えられている。利用者の身体の状態に合わせ、買い物へ一緒に行くこともある。訪問時、職員と利用者が一つのテーブルで旬の食材がたっぷりの昼食を楽しんでいた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	状態や本人の希望にあわせたメニューを提供している。また嗜好品は本人の希望にそった飲み物等を提供している。職員全員で献立をチェックし、栄養バランスを把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	全員が口腔ケアが出来るように毎食後声かけをし実施している。週2回ボリデントにより義歯洗浄をしている。家族希望により毎日している方もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄ができるように個々の排泄パターンをつかみ、個々に合った声かけをしている。綿パンツ利用の方にはパット交換等の声かけをし、継続できるよう支援している。	一人で排泄できる方が多いが、できない方には、チェックシートを確認しながら適切に誘導を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりトイレで、確実に排便を確認するようにしている。また飲食物の工夫や、毎日の散歩・運動に取り組んでいる。可能な限り薬剤に頼らないよう排便コントロールについて、日頃から職員同士話し合っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日入浴できる体制は整えている。職員が個々の入浴日を決めるのではなく、ご本人の希望を優先している。衣類の準備はできる方は自分で準備してもらっている。小風呂に入ることも、温泉に入ることもできる。	温泉地という立地を活かし、毎日午後は温泉浴を楽しむことができる。同性の介助の希望にも添い、入浴を拒まれる方には無理強いせず、様々な言葉かけで誘導している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は活動をして、生活リズムを作り夜間安眠できるようにしている。一人ひとりの体調や表情を配慮してゆっくり休息がとれるように支援している。夜間寝れない時には会話をするなど配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ケースファイルに薬の効能、副作用など添付し把握している。内服には日付を記入し、チェック体制をきちんとし、誤薬などないようにしている。誤薬や服薬忘れ等がないよう日頃から話し合っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節感のある旬の食材を調理しながら入居者の経験や知恵を発揮する場面を作っている。外食、外出、地域の行事に参加する時は、入居者と相談しながら行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望により外出、外食にも出かけている。外出時に家族の協力を得ることもある。買物の希望者があればその都度支援している。	お花見やピクニック等の年間行事の他、日常的に近くの公園に散歩に出かけたり、地元の喫茶を利用したりと、家族や地域の方々の協力を得ながら外出を楽しまれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	その方の能力に応じて小額を持って金銭管理をしている方もある。必要な物あれば、職員が預かっているお金で、入居者と一緒に買物をすることがある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に連絡したい入居者がおられれば、施設の電話を使い、話をしている。手紙も書けるように環境を整えている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔を保つために施設内の環境整備に努めている。また、季節が感じられるような飾りや花などを活け、生活のリズムに合わせて音楽を流すなど、居心地よく過ごせるよう工夫をしている。	施設内はどこも清潔に保たれている。特にリビングは開放的で明るく、利用者がゆったりと過ごされている様子が見られた。壁には、利用者の作品や写真が飾られ、温かい雰囲気を感じられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングをテーブル席とソファのコーナー、畳敷きのコーナーなど、思い思いに過ごせる居場所作りを工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族に協力してもらい、家族の写真や好みものを置いたり、クラブ活動で作ったものを飾り、自分の居場所作りをしている。	居室はどこも清潔に保たれ、思い思いの家具や飾りが置いてある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室内は、ベッドやデスクの位置が個々によって違っており、その方の動きに合わせている。また、リビングは広くゆったりとしており、安心して移動できるように配慮している。		